

学生海外研修報告

「私が体験したこと」

カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)

横塚 紳之介 (医学部2年)

今回の研修を通して、海外に留学するという事は自分自身への挑戦だと感じました。右も左もわからない異国の地に、英語もまともにしゃべることができない自分が行くことは非常に不安でした。しかし、実際に研修を終えて感じることは言語の巧拙は海外において全く問題にならないということでした。UCLA Medical Center, 見学の機会を与えてくださったサラモン典子先生は、「アメリカの中では日本人は非常に少数派である」とおっしゃっていました。この言葉は単に、アメリカの中に日本人の医師や研究者、学生が少なくと言っているのではなく、多量の日本人は自らの外国語力に自信が持たず、外国語を話す機会を自ら失っているという状況を言っているのです。また典子先生は、日本人は他の人に比べ積極性がないとおっしゃっていました。海外で通用するためには言語を磨く前に積極的に物事に取り組み挑戦していくという当たり前のことを忘れてはならないと痛感しました。自分の考え方や世界の中の立ち位置を見つめなおすことができた有意義な研修でした。

ジエームスタウン コミュニティカレッジ(JCC)

岡本 麻由 (薬学部3年)

私は、英語能力の向上と世界に目を向けたいという目標を持って、夏休みの期間を利用して7月30日から8月20日まで語学研修に行ってきました。

アメリカでの授業はディベートが中心で、日本人にとってはなかなか自分から発言するのは難しいと感じました。慣れないうちにだんだんと発言できるようになってきました。また、授業でよく政治や世界情勢のディベートになりましたが、私たち日本人はその話し合いに参加することが難しいことが多々ありました。中国やユニオンから来た生徒は、自分たちの国で内乱や問題を抱えていることが多く、それ故に自国だけでなく他国に対しても強い関心を持っていました。しかし、日本は比較的問題が少なく、世界に目を向ける機会を失いがちです。これからは、もっと広い視野で世界に目を向け、さまざまな出来事に自分から関心を持つていくべきだと認識しました。



と認識しました。アクティビティとして、ナイアガラの滝や自然公園に行くこともありました。このときは、さまざまな国から来た友人たちと英語で会話する機会もあり、また他国のことについても知ることができました。



アジア太平洋歯科学生会議 (APDSA)

南 えりか (歯学部4年)

2017年8月1日から5日に香港で開催されたアジア太平洋歯科学生会議 (APDSA) に参加しました。 (APDSA はアジア太平洋地域の歯科学生の国際交流団体で、毎年夏に開催される学生レベルでの交流を深めることを目的としています。) 今年日本人学生31人を含む総勢300人以上の学生が参加しました。

本学からは戸田山直輝、家泉裕香、中村圭介、南えりか、大塩葵、千田裕美子の6人が参加し、うち3人(家泉、南、大塩)は Scientific Research Competition にも参加しました。各国の教育システムの違いや症例について具体的な話ができて、良い刺激を受けることができました。帰国後も交流が続いており、良い仲間に出会えたことに感謝しております。また来年も参加したいと思える大変充実した会議となりました。学生のうちにアジアの人達と交流することはこれからの学習に刺激を与えられるような経験ができるので参加することをぜひお勧めします。

ハワイ大学 ワークショップ

平石 優理 (医学部5年)

ハワイ大学医学部 (JABSO) の Summer Medical Education Institute に参加しました。このワークショップでは臨床推論を PBL 形式で学ぶほか、英語で医療面接や身体診察を模擬患者さん相手に実践したり、マネキンやシミュレーターを用いて内視鏡検査・鏡視下手術などの手技を体験し

就任のお知らせ (11月14日 理事会承認)

富士吉田教育部生理学 教授 金丸 みつ子
現：医学部生理学講座 生体調節機能学部門 准教授
任命日：平成30年4月1日

今回ご指導ご協力いただきました宮崎隆先生、桑田啓貴先生、上條竜太郎先生、山田篤先生、口腔生化学講座の皆さま、国際交流センターの先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

最後にになりましたが、このような貴重な機会を提供して下さった方々、ご尽力くださった全ての方々に心より感謝申し上げます。高いモチベーションを持ってこれからの努力を重ねていきたいと思っております。

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方々 (平成29年10月1日～10月31日お申し込み分)

教育研究への寄付
【一般】 籾木 衡平 様 【父母】 医療法人隆望会 理事長 東 隆行 様
医療施設への寄付
【一般】 高橋 明 様
創立90周年記念事業への寄付 (上條記念館建設)
目標寄付金額：10億円
累計寄付金額：239,956,853円 (H29.10.31現在)
※上條記念館建設事業へ累計100万円以上のご寄付をされた方は上條講堂(新)座席へ芳名プレートを設置し、顕彰させていただきます。(申込状況は下図参照)
【父母】 医療法人俊和会 理事長 中西 俊郎 様
【同窓】
島袋 良夫 様(医31回生) / 海老原 為博 様(医38回生) / 齊藤 容子 様(歯10回生)
株式会社大和調剤センター 代表取締役 野中 明人 様(薬6回生)
医療法人社団育陽会 東京聖徳病院 院長 下島 二郎 様(医28回生)
医学部57回生 一同 様(医57回生) / 鈴木 吾登武 様(医56回生)
【職員】 山本 滋 様
【備考】 ※申込順となっております。
※名前の公表を希望されない方については、掲載していません。
※申込時に同窓欄へ記載があった方につきましては、名前の後に学部と卒業回生を掲載しております(職員は除く)。
医…医学部 歯…歯学部 薬…薬学部 保…保健医療学部

上條記念館建設事業 上條講堂(新) イス芳名プレート席数

既申込数 91席
対象席数 437席
平成29年10月31日時点

※黒塗り部分が既申込席となります。
※本事業への寄付が100万円以上の方が対象
※前方2列はプレート設置対象外です。
(図)上條記念館内上條講堂(新)1階

昭和大学 公認サークル紹介

郷土料理研究会

【サークルの概要】

- ・所属人数：26名 (男：23名 女：3名)
- ・活動日：月に1～2回程度
- ・代表者名 新井 一成

当サークルは、「郷土料理」をテーマに、サークルメンバーの地元を訪れ、歴史を学び、その地域の郷土料理や名産を食し、語り合い職員同士のコミュニケーションを円滑にするサークルです。この郷土料理研究会サークルでは

- ・「その土地を知る」、知らない町に興味を持ち「繋がり」を増やしていく
- ・新たな発見や気付きによって、各々の感性を高める
- ・他職種でのコミュニケーションを潤滑にすることに重きを置いています。

ただでさえ、都心一極集中、地域衰退と叫ばれているこのご時勢、ふるさと納税がブームの時代ですが、昭和大学サークルの「郷土料理研究会」で地方・地域活性化の一助になればいいなと考え活動しています。